

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年 4 月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (28年 2 月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年 2 月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年 2 月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常 2 月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<総合リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況【資料1参照】

- ・ 神戸学院大学全学教育推進機構学部FD委員会（平成28年度までは神戸学院大学教育開発センター学部FD委員会）
- ・ 総合リハビリテーション学部FD委員会
- ・ 神戸学院大学自己点検評価委員会
- ・ 総合リハビリテーション学部自己点検評価小委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 総合リハビリテーション学部FD委員会は年間計画を立案し、計画に従って学部FD研修会を開催した。【資料2】委員会は、理学療法学科、作業療法学科、社会リハビリテーション学科からそれぞれ1名ずつ選出された教員3名で構成されている。
- ・ 自己点検評価小委員会は原則2か月に1回以上開催（構成員3名以上）し、平成29年度はメール会議を含んで19回開催した。構成員は理学療法学科2名、作業療法学科2名、及び社会リハビリテーション学科2名の6名で構成されている。【資料3】

c 委員会の審議事項等

- ・ 総合リハビリテーション学部FD委員会
「FD講演会、ワークショップ企画」「授業評価アンケート実施計画」「授業評価アンケート結果の公開と教員のコメントについて」「学生とFD委員との懇談会」「医療リハビリテーション学科実習指導者会議」「FD予算の割り当てによる学部FD活動の推進」
- ・ 自己点検評価小委員会【資料3】
「2017年度に受ける大学評価のために、大学評価に関する自己点検資料の作成」「中期行動計画における中間報告書及び年次達成度報告書の作成」平成30年度から始まる「第2次中期行動計画（2018-2022）案作成」

② 実施状況

a 実施内容

- ・全学教育推進機構主催のFDワークショップを平成29年9月に開催した。【資料4】
- ・全学教育推進機構では Semester 終了直前（7月及び12月）に授業アンケートを実施し、授業毎の結果を公表すると共に、評価結果に対する担当教員からのコメントを付している。平成26年度よりWEB上で公開している。平成29年度は7月と平成29年12月～平成30年1月に授業アンケートを実施し、平成29年7月分を平成29年10月に、平成29年12月～平成30年1月分を平成30年2月に公開した。【資料5】
- ・総合リハビリテーション学部FD委員会ではFD講演会を5回開催した。【資料2】
- ・作業療法学科において臨床実習施設の学生指導担当者とともに学生指導の質向上を図る臨床実習Ⅰ指導者会議を平成29年12月16日に、臨床実習Ⅱ指導者会議を平成30年3月10日に開催した。
- ・理学療法学科において臨床実習施設の学生指導担当者とともに学生指導の質向上を図る臨床見学実習、臨床評価実習、理学療法臨床実習、実習指導者会議を平成30年2月10日に開催した。
- ・学術誌「神戸学院総合リハビリテーション研究」の第13巻2号（平成30年3月）に学部教員の論文及び当該年度における研究業績を記載した。

b 実施方法

- ・「授業評価アンケート結果及び評価結果に対する担当教員からのコメントの公開」については学部教員及び学生にWEB上で公開した。また、学術誌「神戸学院総合リハビリテーション研究」は同一学問領域の学部学科を有する大学等（約170校）及び学内に配布した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

総合リハビリテーション学部FD委員会主催のFD講演会（SD関連の講演会含む）、ワークショップを5回、全学教育推進機構主催のFDワークショップを1回、臨床実習指導者会議を3回実施した。テーマと教員の参加人数は以下のとおりである。

・FD講演会

平成29年度

第1回：日時 平成29年9月6日（水）

テーマ 「障害のある学生への合理的配慮と就労支援」

講師 面高有作（九州大学基幹教育院特任助教）

参加者 学部教員 38名

第2回：日時 平成29年8月31日（木）～9月1日（金）

テーマ 「全国リハビリテーション学校協会主催第30回教育研究大会・教員研修会」

場所 新潟医療福祉大学

参加者 岩井信彦（理学療法学科）

第3回：日時 平成29年12月16日（土）

テーマ 「臨床実習におけるコミュニケーション・接遇に関する学生指導について」

講師 津崎 武（株式会社Sanctity代表取締役 作業療法士）

参加者 学部教員 12名 + 臨床実習Ⅰ指導 約30名

第4回：日時 平成30年2月10日（土）

テーマ 「問題解決能力を醸成するための臨床実習指導方法について」

講師 成田 孝富（西宮協立リハビリテーション病院）金谷佳和（平病院）

参加者 学部教員 12名 + 臨床実習指導者 83名

第5回：日時 平成30年3月7日（水）

テーマ 「外部アセスメントPROG 2017年度1年生 受験結果報告」

講師 中込 洋、長谷川里沙（株式会社リアセック）

参加者 学部教員 34名

・教育開発センターFD委員会主催FDワークショップ

日時 平成29年9月15日（金）

講師 佐藤浩章（大阪大学全学教育推進機構）

テーマ 「学修成果可視化のためのカリキュラム評価について」

学部よりの参加者 学部教員 8名

・臨床実習指導者会議

作業療法学科臨床実習Ⅰ指導者会議

日時 平成29年12月16日（土）

参加者 教員 12名、実習指導者 30名

理学療法学科臨床実習指導者会議

日時 平成30年2月10日（土）

参加者 教員 12名、実習指導者 83名

作業療法学科臨床実習Ⅱ指導者会議

日時 平成30年3月9日（土）

参加者 教員 14名、実習指導者 39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・障がいを持つ学生が入学してきていることをはじめ、障がいをもつ教員も採用されることから、障がいをもつ人への合理的配慮について学び、対応の方法を参考にし、各教員が対応する際の参考にした。
- ・臨床実習について、学生のみならず、指導者として学生を受け入れてくれる臨床現場の理学療法士、作業療法士とともに研修を受けることにより、学生の課題に対して、共通の認識を持って対応できるようになった。
- ・講義や専門の教育だけでは評価することができない学生の側面について、外部試験をいかに利用できるかについて、知識を持つことができ、学生指導などに役立てられるようになった。
- ・カリキュラムマップの作成方法を学び、ディプロマポリシーと講義との関連性をより明確にすることができるマップを作成した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施時期は、各セメスターの授業終了直前である。各授業毎の結果を公表すると共に、そこに アンケートに対する担当教員からのコメントを付している。平成26年度よりWEB上で公開している。平成29年度は7月と12月～1月に授業評価アンケートを実施し、平成29年7月分を平成29年10月に、平成29年12月～平成30年1月分を平成30年2月に公開している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員及び学生に対して、各授業毎の結果及び評価結果に対する担当教員からのコメントをWEB上で公開している。平成29年7月分を平成29年10月に、平成29年12月～平成30年1月分を平成30年3月に公開した。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙・資料6参照

② 自己点検・評価報告書

【全学】

教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表することを学則、大学院学則に規定している。

本学の自己点検・評価をつかさどる組織として、自己点検・評価に関する基本的な事項を審議し決定する自己点検評価委員会を設け、そのもとに各組織にかかる事項の自己点検・評価を実施し、当該報告書を作成するために、30以上の自己点検評価小委員会を置いている。さらに、自己点検・評価の内容等を第三者的な立場で検証するため、学外の学識経験者を構成員に含んだ自己点検評価結果検証委員会を設置するなど、体制を充実させ、積極的に自己点検・評価に取り組んでいる。

具体的には、平成24年、法人創立100周年を機に平成25年度から5年間に実施する施策をまとめた「第1次中期行動計画（2013-2017）」の年度毎の進捗評価を、「年次達成度報告書」でもって行うことを自己点検評価委員会で決定し、自己点検・評価を実施している。

また、昨年度は「第1次中期行動計画（2013-2017）」の最終年度であったことから、「第2次中期行動計画（2018-2022）」を策定し、「第1次中期行動計画（2013-2017）」と同様に、年度毎の進捗評価を、「年次達成度報告書」でもって行うこととしている。

なお、平成25年度以降、自己点検・評価結果については、翌年度に本学のホームページ上で公表を行っており、平成29年度の自己点検・評価の結果の公表についても、次項のとおり公表を行う予定である。

【総合リハビリテーション学部】

総合リハビリテーション学部の所管する事項についての具体的な施策を、「第1次中期行動計画（2013-2017）」として定め、PDCAサイクルを回すことによって、改善を行ってきた。この「第1次中期行動計画（2013-2017）」が2017年度で終了した。

全学の自己点検評価委員会のもと、総合リハビリテーション学部自己点検評価小委員会にて、その実施状況等に関する自己点検・評価を行い、「年次中間報告書及び年次達成度報告書」としてまとめた。

平成30年度から始まる「第2次中期行動計画（2018-2022）」を定めた。

平成29年度に公益財団法人大学基準協会による認証評価が行われた。これらのための点検・評価報告書を作成した。点検・評価項目に従って、定期的に学部で検討を行う必要がある項目については、教授会等で検討を加えた。

a 公表（予定）時期

平成29年度の「年次達成度報告書」は、自己点検評価結果検証委員会において検証され、検証結果に基づき各自己点検評価小委員会にて加筆・修正するなど学内手続きを経て、平成30年度内に公表する。

b 公表方法

大学ホームページ上で公表する（平成31年3月末を予定）。

③ 認証評価を受ける計画

公益財団法人大学基準協会による大学認証評価を平成29年度に受審し、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2025（平成37）年3月31日までとする。」との結果を受けた。

次回は、平成36年度に受審することを予定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有 無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (30年 7月 1日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。